

タイヤを上手に使っていただくために

危険防止のために

空気充填

- **危険** 破裂の危険を避ける為、タイヤを安全圏の中に入れる等、安全措置を講じた上、空気を充填してください。
- **危険** 空気充填時又は充填後タイヤサイドウォール部からの異音や聞こえたり、たぐり作業を中止し、避難してください。
- **警告** 自動車用タイヤの組立て時のビードシーティング圧は、300kPa(3.0kgf/cm²)とし、これを超える圧は注入しないでください。ビードシーティングとは、タイヤ組立て時にタイヤの両側のビードがリムのビードシート部に周均等にのった状態(ハンプリム)は、ビードがハンプリムを越えた状態をいいます。
- **注**1) タイヤ・折りたたみ式応急用タイヤ、ランフラットテクノロジー採用タイヤ、その他製造業者の指定がある場合にはそれに従ってください。
- **注**2) ビードシーティング圧以内の空気を注入し、タイヤの両側のビードがリムのシート部に周均等にのっていること(均等にのっていない場合は一旦空気を抜き、タイヤをリムから外してタイヤ、リム等に異常が無い事を確認し、ビード及びリムに潤滑剤を再度塗布する)を確認した後、使用空気圧に充填または、調整してください。尚、Tタイプ・折りたたみ式応急用タイヤ、ランフラットテクノロジー採用タイヤ、その他製造業者の指定がある場合にはそれに従ってください。

タイヤの傷

- **危険** コードに達している外傷・ゴム割れのあるタイヤは、使用しないでください。タイヤの損傷発生につながる恐れがあります。修理が可能か否かについてはタイヤ販売店等にご相談ください。

安全維持・性能維持のために

タイヤ選択時の注意

- 自動車製作者が指定した標準タイヤまたはオプションタイヤの使用を基本とし、その他のタイヤを選定される時はタイヤ販売店等にご相談ください。
- 積雪または凍結路では、冬用タイヤを全車輪に装着してください。夏用タイヤは、積雪または凍結路において、冬用タイヤに比べて制動距離が長くなります。また、冬用タイヤは全車輪に装着しないと挙動が安定しません。尚、冬期が過ぎたら一般路(乾燥路・湿潤路)走行に適した夏用タイヤに交換することを推奨します。
- 全車輪とも、同一のサイズ、種類、構造、タイプ[※]のタイヤを使用してください。但し、自動車製作者またはタイヤ製作者による個別の指示がある場合はその指示に従ってください。
- **警告** ※タイプとは夏用タイヤ、冬用タイヤ等をいう。特に四輪駆動車はご注意ください。
- **警告** サイズ、種類、構造、タイプの異なるタイヤを同一車輪に使用すると、タイヤ性能が異なる為、車の安定性を損ない、事故等につながる恐れがあるので混用しないでください(応急用タイヤは除きます)。
- チューブ、フラップは、タイヤサイズと同一サイズ表示のあるもので、バルブは車両およびホイールに適合するものを使用してください。
- 新品のチューブタイプのタイヤには、新品のチューブ、フラップを使用してください。
- 新品タイヤを装着する時、チューブレスタイヤには新品のチューブレス用バルブの使用を推奨します。
- ホール選定はタイヤ販売店等にご相談し、タイヤサイズおよび車両に適合したホールを使用してください。また、チューブレスタイヤには必ずチューブレス用ホールを使用してください。

異物・傷の点検

- ホールには、亀裂、変形等の損傷や著しい腐食がないことを確認してください。
- タイヤに、亀裂がないかまたは釘、金属片、ガラス等が刺さっていたり、溝に石その他異物を噛み込んでいないか確認してください。異物を発見した時は、タイヤ販売店等にご相談の上、取り除いてください。

ならし走行

- 新品タイヤ装着時にはタイヤが暖まるまで、冬用タイヤの場合、80km/h以下の速度で最低100km以上、夏用タイヤの場合、60km/h以下の速度で200km以上の走行距離のならし走行を行ってください。

タイヤ・ホール装着時の注意

- チューブレスタイヤは、ビード周辺の傷等で空気漏れを起こすことがありますので、リム組み時には、必ず当社推奨の潤滑剤を塗布してください。
- タイヤ内の異物や水分によりタイヤの機能を損なう場合があります。リム組み前にタイヤ内を点検し、異物や水分を取り除いてください。
- コンプレッサー内の水分もタイヤ内に入る場合がありますので、定期的にドレイン抜きをしてください。
- **警告** 空気を充填後、バルブキャップを取り付ける前に、バルブコアからの空気漏れ、リム部やタイヤとリムのかん合部(ビード周辺)、バルブまわりの空気漏れがないことを確認した後、必ずバルブキャップを装着し、しっかり締め付けてください。
- 異常振動・偏摩耗を防止するために、ホールバランスは必ず調整してください。
- サイドプロテクト付きタイヤは、サイドプロテクト側を外側に向けて装着してください。
- タイヤサイド部に回転方向または取付方法等の指定があるタイヤは、その指定通りに正しく装着してください。
- **警告** 破裂の危険がありますので、タイヤを車両に装着した時は車体と接触する恐れがないか、必ず確認してください。
- 車体からタイヤ・ホールがはみ出さないようにしてください。オーバーランダーになるような装着、およびフェンダー加工、車両の改造等による装着は、法令で禁止されています。絶対に避けてください。
- 複輪タイヤ使用の場合、外径差が大きいと早期損傷や偏摩耗により安全性、経済性が損なわれます。複輪での外径差は、小型トラックタイヤでは、ラジアルタイヤは6mm以内、バイアスタイヤは8mm以内であることを確認してください。許容差内の外径差がある場合は、小さい方を内側に装着してください。
- ホールを外した時には、ホールボルト、ナット、ホールディスク等に折損、亀裂、変形等がないことを確認してください。
- アルミホールからスチールホールまたはスチールホールからアルミホールに交換する場合、ホールボルト、ナット(JIS方式の場合のみ交換)を専用のものに交換してください。
- ホールナットはトルクレンチを使用し、規定トルクで締め付けるようにしてください。インパクトレンチで締め付ける場合は、締め付け時間、圧縮空気等に留意し、締め過ぎない様十分注意を払い、トルクレンチでの確認等を併用してください。
- ホールを車体へ取付け、50〜100km走行後、ホールナットを規定トルクで増し締めしてください。
- 更生タイヤは、前輪に装着しないでください。

空気圧に関する注意

- **警告** エアコンプレッサーの調整弁は、タイヤ破裂の危険性があるので、タイヤの使用空気圧に応じ、下表より正しく調整してください。

エアコンプレッサー調整弁の最高調整空気圧

タイヤの使用空気圧区分	調整弁の最高調整空気圧
400kPa(4.0kgf/cm ²)まで	500kPa(5.0kgf/cm ²)
400kPa(4.0kgf/cm ²)超〜600kPa(6.0kgf/cm ²)まで	700kPa(7.0kgf/cm ²)
600kPa(6.0kgf/cm ²)超〜900kPa(9.0kgf/cm ²)まで	1,000kPa(10.0kgf/cm ²)
900kPa(9.0kgf/cm ²)超〜1,200kPa(12.0kgf/cm ²)まで	1,300kPa(13.0kgf/cm ²)

- **警告** ● タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に、エアゲージにより定期的(最低1ヶ月に1度)に点検し、自動車製作者又はタイヤ製作者の指定空気圧を下回ることがないように調整してください。空気圧に過不足があると、タイヤが損傷したり、事故等につながる恐れがあります。
- 特に偏平タイヤの空気圧不足は、見た目によりわかりにくい、必ずエアゲージによる点検をしてください。
- 走行時および走行後は熱によって空気圧が高くなりますが、決して抜かないでください。
- 自動車製作者の指定空気圧は車両の取り扱い説明書、ドア付近等に表示されています。不明の場合はタイヤ販売店等にご相談ください。
- タイヤの性能を十分に発揮する為には、適正空気圧で使用する事が大切です。不適正な空気圧で使いますと、操縦安定性の低下やタイヤ損傷の原因となります。
- スペアタイヤの空気圧は、定期的(最低1ヶ月に1度)に点検し、自動車製作者の指定した値に調整しておいてください。
- 複輪間、空気圧差が大きいとタイヤ損傷、偏摩耗等により経済性、安全性が損なわれます。複輪タイヤの空気圧は、同一になるように充填してください。

サーキット等走行時の注意

- サーキット、ジムカーナ用(オンロード)タイヤでのサーキット路等の走行時におきましても、「タイヤ選択時の注意」を遵守し、空気圧は走行前に「空気圧に関する注意」に従って調整してください。

摩耗限度

- **警告** ● タイヤの溝深さの使用限度は、スリップサインが露出する残り溝1.6mmです。それ以前に新品タイヤとお取り換えください。
- **警告** ● 積雪および凍結路走行の場合は、冬用タイヤの残り溝が新品時の50%以上あることを確認してください。使用限度は接地部に冬用タイヤの摩耗痕を示すプットホームが露出しているか否かで判断してください。残りの溝深さが新品の50%未満のタイヤは冬用タイヤとしては使用しないでください。夏用タイヤとして継続使用する場合はタイヤの溝深さはスリップサインが露出する残り溝1.6mmです。すり減ったタイヤは、運動性能が低下したり、濡れた路面でスリップしやすくなるなど危険です。それ以前に新品タイヤとお取り換えください。
- 高速道路を走行する場合のタイヤの使用限度は小型トラック用タイヤでは、残り溝2.4mmです。

安全走行ポイント

- **警告** ● 走行中に車両が操縦不安定または異常な音および振動を感じた時、すみやかに安全な場所に停車して、車両およびタイヤを点検してください。タイヤに変形等異常がないか確認してください。また、外観上、異常がなくとも、できる限り低速で移動し、タイヤ販売店等へ点検を依頼してください。
- **警告** ● 急発進、急加速、急旋回および急停止は危険ですので避けてください。特に、湿潤路、積雪路および凍結路は滑りやすく、事故につながる恐れがある為、急カーブでは減速するなど、道路状況に応じた適切な運転をしてください。
- **警告** ● タイヤを傷つける恐れがあるので、道路の縁石等にタイヤの側面を接触させたり、道路上の凹みや突起物乗り越しなどは避けてください。
- 走行中は、常に走行速度に応じた車間距離を確保してください。特に、湿潤路、積雪路および凍結路走行時は十分な車間距離を確保してください。
- タイヤのタイプやサイズを変更した場合は、タイヤの運動特性が変化するので、慣れるまでは走行速度等に注意して運転してください。
- タイヤの制動性能は、車両の走行速度、路面状況、タイヤ溝の摩耗量及びタイプ(夏用タイヤ、冬用タイヤ等)により異なります。冬用タイヤは積雪路及び凍結路面性能を重視しています。特に、乾燥路及び湿潤路で使用する場合は、実際の交通(速度)規制に従い、走行速度に注意し、急発進、急制動、急旋回を避け、安全運転に心がけてください。
- 安全走行を確保する為、タイヤ点検時に合わせて、ホールバルブも劣化、亀裂がないことを点検してください。ホールバルブに劣化、亀裂がある場合はタイヤ販売店等にご相談ください。また、バルブキャップをしっかり締め付けてくださいか確認してください。
- 推奨路面以外での使用は故障の可能性があるので、控えてください。
- 応急用タイヤ、パンク応急修理用具で修理したタイヤおよびランフラットテクノロジー採用タイヤのパンクの使用に関しては、自動車製作者の指定に従ってください。
- ホールナットの緩み、脱落、およびホール部の折損、変形等の異常が無い事を確認してください。

美化・保護剤

- 市販の瞬間パンク修理剤またはタイヤつや出し剤等で、タイヤに劣化等有害な影響を及ぼすものは使用しないでください。
- シリコンワックス分が含まれているタイヤ美化剤やリム組み潤滑剤を塗布する場合は、トレッド表面(接地部)に付着しないように注意してください。もし付着した場合は注意して走行してください(目安として乾燥路で10km前後)。

タイヤ保管

- タイヤ・チューブは、直射日光、雨および水、油類、ストーブ類の熱源および電気火花の出る装置に近い場所などを避けて保管してください。
- タイヤ単体での保管の場合、特に内面に水や異物が入らないように保管ください。
- 長期間、取り外し保管しますと、タイヤ内部の薬品がにじみ出て床を汚す恐れがありますので控えてください。もし床面に保管する場合は、段ボール等厚い敷物をご使用ください。
- タイヤ・ホールセットでの保管の場合は、接地部の変形をおさえる為、なるべく横置きに保管してください。空気圧を使用時の1/2程度に落とし、ホールバルブにはバルブキャップを取り付けて保管してください。

長期経過タイヤの点検・交換について

- タイヤは自動車の安全にとって重要な役割を担っています。一方、タイヤは様々な材料からできたゴム製品であり、ゴムの特性が経時変化するに伴い、タイヤの特性も変化します。その特性の変化はそれぞれ使用条件・保管条件および使用方法(荷重・速度・空気圧)など左右されますので、点検が必要です。従って、お客様による日常点検に加え、使用開始後5年以上経過したタイヤについては、継続使用に適しているかどうか、すみやかにタイヤ販売店等での点検を受けられることをお奨め致します。また、同時にスペアタイヤにつ

いても点検を受けられることをお奨め致します。また、外観上使用可能なように見えたとしても(溝深さが法基準に規定されている値まですり減っていない場合も)製造後10年(注)経過したタイヤ(含むスペアタイヤ)は新しいタイヤに交換されることをお奨め致します。尚、車両メーカーがその車の特性からタイヤの点検や交換時期をオーナーズマニュアル等に記載している場合もありますので、その記載内容についてもご確認ください。(注:ここに記載した10年という年数は、あくまで目安であって、そのタイヤの実際の使用期限(すなわち、継続使用に適していないこと、または安全上の問題があるかもしれないことを示す時期)を示すものではありません。従って、環境条件・保管条件および使用方法によっては、この年数を経過したタイヤであっても、継続使用に適している場合もあれば、この年数を経過していないタイヤであっても継続使用に適していない場合もあり得ます。10年を経過していないタイヤであっても、上記の環境条件等によっては交換する必要がある場合があることにご注意ください。またこの10年という年数はおよびタイヤ販売店等による点検お奨め時期である使用開始後5年および10年という年数は、いずれもブリヂストン・プリヂェストンの販売会社・タイヤ販売店による品質保証期間・期限を示すものではありません)

位置交換

- タイヤの摩耗は、駆動輪と操縦輪等装着位置によって受ける力が異なるため、均一にはなりません。異常振動・騒音の防止およびタイヤ寿命を延ばすため、位置交換(ローテーション)を適宜実施ください。
- タイヤの位置交換は、車両の使用条件に合わせて、スペアタイヤも含めた適正な方法で定期的に行ってください(但し、Tタイプ応急用タイヤは除く)。

過積載

- **警告** ● タイヤ損傷につながる恐れがあるので、車両に指定された積載量、定員を超えて使用しないでください。

ホール・アライメント

- 車両の足回りに異常が生じますと操縦安定性不良、異常摩耗が発生する場合がありますので、適宜ホール・アライメントを確認、調整ください。

タイヤチェーン使用時の注意

- タイヤチェーンは、タイヤサイズに適合するサイズのものを駆動輪または、自動車製作者が指定する位置のタイヤに装着してください。
- タイヤチェーンを装着して積雪または凍結していない道路を走行する場合は、タイヤ、タイヤチェーンおよび車両を損傷したり、スリップする恐れがあるので、避けてください。
- タイヤチェーンを装着しての積雪路および凍結路走行は、金属製チェーンでは30km/h以下、非金属製チェーンでは50km/h以下の速度をお守りください。

ブレーキスター上用上の注意

- タイヤがロックした時、できるだけ早くブレーキをはなしてください。ブレーキスター上で長時間タイヤをロックさせると、タイヤ損傷に至る場合があります。

焼印の押し方

- 管理の為焼印を押す時は焼印からのクラックを防止する為、位置はリムライン付近になるべく浅く押してください。

その他の注意

- **警告** ● リム溝、穴あけ等の加工をしたタイヤは、損傷したり、事故につながる恐れがあるので、使用しないでください。
- 低床化、積載効率向上をはかる為に既存のトラック・バスに新たにロープフェイリタイヤを装着される場合は、「車両改造変更申請」で、陸運局の認可が必要ですが、尚、タイヤ外径が小さくなるため、エンジン回転数の増加や、シフトメーターの値に狂いが生じます。詳しくは、プリヂェストンの販売会社、またはカーディーラーにお問い合わせください。

リトレッドタイヤ選定・使用上の留意点

- リトレッドタイヤ選定上の留意点
リトレッドタイヤは摩滅したタイヤを土台に用いて(以下台タイヤと表現します)、トレッド面に新しいパターン(模様)を形成して製造します。リトレッドタイヤで用いた台タイヤを明らかにするために台タイヤに刻印されている表示を残し、リトレッド部分に表示を加えています。そのため、リトレッドタイヤ選定時には次の点にご留意願います。
- リトレッドタイヤのタイヤサイズ、タイヤ構造表示
タイヤサイズ並びにタイヤの基本構造は台タイヤのオリジナル表示を用います。
タイヤサイズ表示例 1) 11R22.5 14PR
タイヤサイズ表示例 2) 275/80R22.5 151/148J
タイヤ構造表示例 3) TUBELESS
タイヤ構造表示例 4) RADIAL
- リトレッドタイヤのパターン・SNOW等の表示
リトレッドタイヤでは台タイヤとリトレッド後のパターン名称が一致しない場合があります。リトレッド後のパターン名称および冬用タイヤを表すSNOW表示等は、リトレッド部分の表示を確認願います。
- リトレッドタイヤの次の留意点を守ってご使用願います。
- リトレッドタイヤの使用条件
① 空気圧
新品タイヤと同じ空気圧管理でご使用願います。
② 装着位置
前輪には使用しないでください。後輪でも、特に使用条件の過酷なシングルの遊輪(最後輪)での使用は避けてください。安全性・経済性を損なう場合があります。
③ 複輪組み合わせ
同じリトレッドパターンでも異なる台タイヤによって外径(直径)が異なる場合があります。複輪外径差は8mm以内でご使用ください。
④ バルブなど
リトレッドタイヤ装着時には、新品タイヤ装着時と同様に、バルブ、チューブ、フラップは新品をご使用願います。
⑤ 走行速度
法定速度を守ってご使用願います。

上記、「タイヤを上手に使っていただくために」は、すべて一般のお客様にご案内しているものですが、○印は販売店様にもご確認いただきたい項目となります。

- ① カタログに記載のメーカー希望小売価格は、販売店が販売する価格を拘束するものではありません。
- ② メーカー希望小売価格は、2018年6月現在のものです(メーカー希望小売価格が記載されていないサイズはすべてオプション価格です)。
- ③ メーカー希望小売価格(税込)は、タイプ1本の本体価格と消費税との小計額です。脱着、組立費、バランス調整料金等は含まれておりません。
- ④ 当カタログの記載には、費用がかかっております。
- ⑤ 当カタログに記載されている構造・仕様・価格等は予告なく変更する場合があります。
- ⑥ タイプには製造番号が印刷されています。2020年以降の製造番号では、下4桁(例1218)の数字で製造年を示しています。最初の数字12は週(12週目)を、最後の数字18は年(2018年)を示します。1999年以前の製造番号では、下3桁(例1513)の数字で製造年を示しています。最初の数字15は週(15週目)を、最後の数字の3は年(1999年)を示します。
- ⑦ カタログ記載内容は、2018年6月現在のものです。